

## 沖縄本島周辺海域における現世底生有孔虫群集 Distribution of recent benthic foraminifera around the Okinawa Island

内村 仁美<sup>1\*</sup>, 長谷川 四郎<sup>1</sup>  
Hitomi Uchimura<sup>1\*</sup>, Shiro Hasegawa<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 熊本大学大学院自然科学研究科

<sup>1</sup> Graduate School of Science and Technology, Kumamoto University

底生有孔虫は様々な海洋底環境に鋭敏に反応し、さらに地層中に化石として豊富に産出するため、古海洋環境の復元に広く利用されている。また、そのための基本情報となる現世底生有孔虫分布の研究が進められている。本研究目的は、沖縄本島周辺海域における現世底生有孔虫分布を明らかにし、コア試料を用いた研究で詳細に分析できるように資料を整備することである。

本研究では、沖縄本島の周辺海域で実施された産業技術総合研究所のGH08, 09, 10 航海により採取された表層堆積物について、琉球列島の太平洋（日本海溝）側と東シナ海（沖縄トラフ）側より、地形と水深を考慮して56地点を選定した。各試料の表層部0-2 cmの試料について、船上でローズベンガル染色を行い、室内処理として、開口径63 μmのふるいで水洗し乾燥させて、含泥率を算出した。さらに乾燥した粗粒部を底生有孔虫が200個体前後になるまで分割を繰り返し、最少分割分から全有孔虫を拾い出して同定・計数を行った。

調査により、現時点で38属103種を同定した。各試料の群集組成を比較検討した結果、群集A-Dの4群集に大別できた。それぞれの特徴種は、群集A：磁器質有孔虫, *Amphistegina* spp., 群集B：Globocassidulina subglobosa, Pullenia bulloides, Pseudoparrella exigua, Oridorsalis umbonatus, 群集C：Bolivina robusta, Uvigerina proboscidea, 群集D：Cibicides spp. である。群集Aから群集Cまでは主として水深で区分され、水塊構造との対応が考えられる。群集Dの分布には、底質との関連性が考えられる。

さらに、群集Aの *Amphistegina* 属は、サンゴ礁などの極浅海域に生息することが知られているが、本島周辺海域ではより深い深度帯でも確認され、特に本島西側では1000m近くにまで分布している。これは、堆積物の浅部から深部への移動の影響を反映していると推定される。